



平成27年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月15日
東

上場会社名 株式会社鉄人化計画 上場取引所
コード番号 2404 URL <http://www.tetsujin.ne.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 健一郎
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 国本 亮一 (TEL) 03-3793-5117
四半期報告書提出予定日 平成27年7月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年8月期第3四半期の連結業績(平成26年9月1日～平成27年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第3四半期	7,407	△4.3	369	65.2	423	139.4	238	—
26年8月期第3四半期	7,740	3.4	223	△32.1	176	△38.2	3	△95.6

(注) 包括利益 27年8月期第3四半期 272百万円(—%) 26年8月期第3四半期 22百万円(△72.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第3四半期	38.43	38.35
26年8月期第3四半期	0.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第3四半期	9,774	1,987	20.3
26年8月期	10,083	1,777	17.6

(参考) 自己資本 27年8月期第3四半期 1,987百万円 26年8月期 1,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	4.50	4.50
27年8月期	—	5.50	—	—	—
27年8月期(予想)	—	—	—	5.50	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,980	△1.7	552	80.9	593	104.3	335	151.6	53.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年8月期3Q	6,687,200株	26年8月期	6,687,200株
② 期末自己株式数	27年8月期3Q	476,600株	26年8月期	476,600株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年8月期3Q	6,210,600株	26年8月期3Q	6,210,600株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年9月1日から平成27年5月31日)における我が国経済は、企業収益の改善や雇用情勢の回復傾向が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、消費税率引き上げの影響に加え、国内では円安傾向が続き、当社を取り巻く環境も、依然として厳しい状況が続くと予想されます。

このような経済環境の下、当社グループは、当第3四半期連結累計期間を次期以降の成長に向けた基盤固めの時期と捉え、主力事業であるカラオケルーム運営事業の再構築に特化するために新規出店を抑制する一方で、当社固有の差別化された特色あるサービスの提供を推進することにより、顧客満足度の向上と着実に利益を確保することに注力いたしました。また、お客様に、より魅力的で価値あるサービスをお届けできるよう、グループ一丸となりチャレンジすべく、「遊びの本質を追求 Think Innovation ～もっとワクワクするものを、もっと世の中を盛り上げるものを～」をあらたに企業理念として掲げました。

業績面につきましては、繁忙期に全店一斉に販売促進キャンペーンを展開した他、法人営業部門の新設等を進めることにより売上伸長に取組み、一方、閑散期については提供メニューの整理見直しによるコスト抑制、効率的な販売促進活動等に取組み、店舗原価の抑制に取り組んでまいりました。

なお、部門間の情報共有の強化、業務効率の向上のために業務スペースをワンフロアに集約すべく、本年4月に本社を目黒区東山に移転いたしました。

また、引続き有利子負債の削減を進め、財務基盤の強化についても取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高7,407百万円(前年同四半期比4.3%減)、経常利益423百万円(前年同四半期比139.4%増)、四半期純利益238百万円(前年同四半期比-)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(カラオケルーム運営事業)

当事業におきましては、繁忙期における全店一斉販売促進キャンペーン展開や、閑散期における店舗原価削減施策を推進してまいりました。また、法人営業部門を新たに立ち上げ、忘年会や歓送迎会等の企業向け営業を開始いたしました。

更に、全店舗を商圈特性ごとにセグメント化し、セグメント内の顧客層を徹底的に分析することにより、商圈特性に応じた個別固有の拡販、コスト削減戦略の実行に着手いたしました。この施策については、今後、引続きブラッシュアップしていくことにより売上及び利益に貢献していくものと期待されます。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は店舗数の減少の影響もあり6,199百万円(前年同四半期比3.4%減)、一方セグメント利益(営業利益)は736百万円(前年同四半期比23.3%増)となりました。

なお、比較可能な既存店^{※1}の売上高は前年同四半期比98.4%でありました。

※1 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

以下、同様であります。

(フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

京都を中心にからふね屋珈琲の屋号でフルサービス型珈琲ショップ運営を行っております。近年のカフェブームを背景に京都河原町三条・本店の近隣では競合店の出店ラッシュとなっておりますが、徹底した接客サービスの向上に注力いたしました結果、比較可能な既存店の売上高が前年同四半期比106.7%となり、また設備投資抑制によるコストダウン効果もあり利益面でも好調に推移いたしました。

なお、フルサービス型珈琲ショップ1店舗を運営しておりました鉄人化計画股份有限公司については、平成27年1月26日に発表いたしましたとおり、清算すべく手続を進めております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるフルサービス型珈琲ショップ運営事業の売上高は608百万円(前年同四半期比4.0%増)、セグメント利益(営業利益)は27百万円(前年同四半期比35.5%増)となりました。

(CP事業)

当事業におきましては、「カラオケの鉄人モバイル」(以下、「カラ鉄モバイル」という。)サイトを中心に運営を行っております。スマートフォンへの乗り換えも進み、売上高は減少傾向でございますが、引続き効率的なサイト運営を行った結果、利益は増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間におけるCP事業の売上高は248百万円(前年同四半期比27.0%減)、セグメント利益(営業利益)は159百万円(前年同四半期比10.9%増)となりました。

(その他)

その他の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、第2四半期連結会計期間に1店舗閉店したため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。

まんが喫茶(複合カフェ)運営事業におきましては、第2四半期連結会計期間に1店舗、当第3四半期連結会計期間に1店舗閉店したことから、売上高は減少となりました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行っております。

また、アメリカ合衆国の準州であるグアムに本店を置く、TETSUJIN USA Inc. はグアム・タモン地区「Guam Reef & Olive Spa Resort」内でエンターテインメントレストラン1店舗を運営しております。当期はカラオケ事業における飲食提供のノウハウを生かしたメニューの改善、業務プロセス全般にわたるコスト改善を実施いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は493百万円(前年同四半期比24.4%減)、セグメント利益(営業利益)は19百万円(前年同四半期セグメント損失(営業損失)8百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における、資産の合計は、9,774百万円となり、前連結会計年度末に比較して309百万円減少いたしました。

流動資産は、2,810百万円となり、245百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が315百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、6,963百万円となり、64百万円減少いたしました。主な要因は、投資その他の資産が206百万円増加した一方で、有形固定資産が319百万円減少したことなどによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における、負債の合計は、7,786百万円となり、前連結会計年度末に比較して519百万円減少いたしました。主な要因は、長期・短期借入金が増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,987百万円となり、前連結会計年度末に比較して209百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金が176百万円増加及び為替換算調整勘定が25百万円増加したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当事業は、忘年会等が多く行われる12月を含む第2四半期連結会計期間と、歓送迎会等が多く行われる3月、4月を含む第3四半期連結会計期間に売上が偏重する傾向があるため、各四半期連結会計期間の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、景況感の復調による消費者の安近短レジャー離れや消費税増税に伴う消費者マインドの低下などの懸念も存在する中で、当社グループと同業の競合店だけではなく娯楽・サービスを営む他業種との間においても顧客獲得競争の激化が予想されるなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

カラオケルーム運営事業におきましては、店舗商圏・環境を意識したセグメント・マーケティングを実践することにより、売上の維持及び利益率の向上に取り組んでまいります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、京都河原町三条・本店におけるブランドイメージの構築に注力するとともに、からふね屋オリジナルスイーツの販売、更なる新メニューの開発などを進めてまいります。

CP事業におきましては、引続き効率的な運営を進め、利益確保に努めてまいります。

その他「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」におきましては、今後も店舗ごとのコスト管理徹底を行い、利益確保重視で事業を進めてまいります。

以上を継続推進していくために、並行して財務基盤の強化にも注力してまいります。その一環として、継続的な成長が見込めない店舗については、営業フロアの縮小や店舗業態の変更、スクラップを進めていくほか、有利子負債についても営業キャッシュの利用により引続き削減してまいります。

以上の状況により、現時点における通期の業績見通しは、平成27年3月25日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基き当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,218,955	1,903,614
受取手形及び売掛金	147,953	138,247
商品及び製品	29,379	30,571
仕掛品	3,553	3,697
原材料及び貯蔵品	117,266	99,075
その他	539,829	636,293
貸倒引当金	△891	△614
流動資産合計	3,056,047	2,810,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,028,072	2,837,860
工具、器具及び備品(純額)	190,544	162,395
その他(純額)	1,056,248	955,079
有形固定資産合計	4,274,864	3,955,335
無形固定資産		
のれん	96,482	42,329
借地権	133,892	133,892
その他	395,391	498,536
無形固定資産合計	625,766	674,758
投資その他の資産		
差入保証金	1,845,720	1,842,436
その他	304,926	509,792
貸倒引当金	△23,882	△19,023
投資その他の資産合計	2,126,764	2,333,205
固定資産合計	7,027,395	6,963,299
資産合計	10,083,442	9,774,185

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	203,131	181,295
短期借入金	18,260	—
1年内返済予定の長期借入金	2,384,641	2,361,540
1年内償還予定の社債	90,000	20,000
未払費用	527,273	524,060
未払法人税等	93,412	127,330
賞与引当金	7,248	7,266
ポイント引当金	16,694	17,660
その他	303,629	317,146
流動負債合計	3,644,290	3,556,301
固定負債		
社債	230,000	210,000
長期借入金	4,182,664	3,539,340
資産除去債務	26,259	37,856
その他	222,775	443,300
固定負債合計	4,661,699	4,230,496
負債合計	8,305,989	7,786,797
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,509	743,509
資本剰余金	736,667	736,667
利益剰余金	472,855	649,446
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	1,776,482	1,953,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,592	9,624
為替換算調整勘定	△821	24,489
その他の包括利益累計額合計	771	34,114
新株予約権	200	200
純資産合計	1,777,453	1,987,387
負債純資産合計	10,083,442	9,774,185

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
売上高	7,740,050	7,407,421
売上原価	6,405,987	5,952,726
売上総利益	1,334,063	1,454,694
販売費及び一般管理費	1,110,539	1,085,455
営業利益	223,523	369,238
営業外収益		
受取利息	380	589
受取配当金	787	936
協賛金収入	31,077	94,499
為替差益	10,284	15,856
その他	29,482	18,882
営業外収益合計	72,013	130,764
営業外費用		
支払利息	83,187	64,614
支払手数料	27,668	6,833
その他	7,963	5,455
営業外費用合計	118,819	76,903
経常利益	176,717	423,099
特別利益		
固定資産売却益	1,471	19,383
特別利益合計	1,471	19,383
特別損失		
固定資産売却損	41	5,317
固定資産除却損	4,539	159
減損損失	43,961	42,172
関係会社株式評価損	—	8,993
特別損失合計	48,542	56,642
税金等調整前四半期純利益	129,645	385,839
法人税等	126,175	147,142
少数株主損益調整前四半期純利益	3,470	238,697
少数株主損失(△)	△3	—
四半期純利益	3,474	238,697

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,470	238,697
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	472	8,032
為替換算調整勘定	18,646	25,311
その他の包括利益合計	19,118	33,343
四半期包括利益	22,589	272,040
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,592	272,040
少数株主に係る四半期包括利益	△3	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。